



## 2017(平成 29)年、日本酒の出荷数量について

### ～ますます高まる特定名称酒人気～

このたび、日本酒造組合中央会が発表した2017(平成29)年(1月-12月)の日本酒出荷量によると、全国計で前年比1.7%減の52万7561kℓとなっており、日本酒ブームと呼ばれて久しいが、5年連続の減少という結果となっていた(平成23年の「大震災復興支援特需」を契機とする平成24年のプラスを除くと、実質22年連続の減少)。

特に構成比66.0%と過半数を占める普通酒は前年比3.1%減、本醸造酒も前年比6.9%減と、全体の出荷量減の大きな要因となっていた。一方、特定名称酒の構成比は平成25年に28.5%、平成26年29.9%、平成27年30.4%、平成28年33.1%、平成29年34.0%と着実に増加しており、特に吟醸酒(純米吟醸酒含む)の伸びが顕著であった。これらの割合はこれからも増えると予想されており、引き続き特別名称酒の動向に注視した方がよさそうだ。

#### 平成29年のタイプ別日本酒出荷数量

		数量(kℓ)	前年比(%)	構成比(%)
特定 名称 酒	吟醸酒	69,685	104.9	13.2
	うち純米吟醸酒	45,291	107.9	8.6
	純米酒	67,058	102.6	12.7
	本醸造酒	42,736	93.1	8.1
	計	179,479	101.0	34.0
普通酒		348,082	96.9	66.0
合計		527,561	98.3	100.0
生酒		40,927	102.5	7.8

出典：酒販ニュース(産業醸造新聞社/2018年2月11日 第1974号)

#### 【注意】

- ・記事、データ等の著作権その他一切の権利はNPO法人FBOに帰属します。
- ・記事・データ等の正確性については万全を期しておりますが、当該記事・データ等の利用により生じた不利益や問題等について当会は責任を負うものではありません。
- ・記事・データ等は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。